

博物館出前講座のご紹介

1. 仲泊小学校5年生総合的な学習(環境)「河川の観察会とダム」

9月14日、仲泊小学校5年生の総合的な学習の一環として、河川とダムの役割を学ぶため、フィールドワークを行いました。当日は恩納村赤土等流出防止対策協議会のスタッフにも協力をしてもらい、河川の学習として山田と真栄田を流れる垂川の下流部にて、河川の現状を見学するとともに、村内の河川の特徴を学習しました。その後、実際に川に下りて、垂川に棲む生き物観察を行いました。グループごとに協力して、網に生き物を追い込んで捕まえる方法で、魚類、エビ類、貝類など多様な生き物を捕まえることができました。今回捕まえることができたのはテンジクカワアナゴという魚やミナミテナガエビやスジエビの仲間、モクズガニのほか、スグカワニナ、イシマキガイなどの貝類といった在来種を多く見ることができました。残念ながら、外来種であるグッピーも見つかりましたが、村内の河川にも多くの生き物が棲んでいることを知り、驚くとともに、非常に熱心に学習に取り組んでいました。

その後、垂川の河口に行き、橋の上から河口の様子を見学しました。河口部では川幅が広がり、川の流れは緩やかになる特徴などを紹介しました。また、淡水と海水が混ざり合う汽水域であること、河川から流れてくるものや海から漂着する物などさまざまなものが流れ着くことなども紹介し、児童たちは河川の特徴について学習しました。

最後に読谷村にある長浜ダムに行き、人と水、ダムと自然の関わりなどについて学習しました。今回は私たちの生活と密接な関わりのある水をとおして、人と自然の関わりや環境保全について学ぶ機会となりました。



生き物観察をする児童たち



捕まえたミナミテナガエビや
イシマキガイ

2. 恩納小学校3年生総合的な学習「干潟観察会」

9月28日、恩納小学校3年生の総合的な学習「干潟観察会」として、ふれあい体験センターと宜志富島の間にある宜志富グムイを案内しました。観察会では干潟とイノー（サンゴ礁に囲まれた浅い海）のゾーンに分けて観察を行いました。

干潮に合わせて現地を訪れ、干潟やイノーの浅瀬を歩き、宜志富グムイの干潟で観察できる代表的な海草・リュウキュウスガモのほか、ニセクロナマコ、フトユビシャコなどの生き物を実際に見ることができました。イノーではコブハマサンゴやキクメイシ科やミドリイシ科のサンゴ類のほか、ルリスズメダイやクロソラスズメダイ、ホンソメワケベラなどの魚類、ヒメジャコ、アオヒトデ、ナガウニなどの生き物を観察しました。

児童たちは普段の授業とは違い、屋外で行ったフィールドワークで生き物に触れるなどさまざまな体験をすることができ、とても充実した授業の時間を過ごすことができたようでした。



みんなで浅瀬を歩きました



捕まえたカニを観察する児童たち